木曽ヒノキポドゾル地帯天然更新施業指標林

1　付知裏木曽施業指標林　　付知営林署

設定の目的

木曽ヒノキポドゾル地帯（ササ型林床）の天然更新施業体系の改善を図るため，収穫から更新に至る個別施業方法の改善を図り，技術体系の検証，普及定着に供する。

場　　所　岐阜県恵那郡付知町付知裏木曽国有林118林班は小班

面　　積　13.62ha

施業経過等

伐採前の林況は，木曽ヒノキ，林齢200年，材積435m³／ha

昭和48年４月～12月木曽ヒノキ（径26～50cm）を魚骨状（本数90本／ha）に保残（保残巾30ｍ）し伐採

昭和49年10月下旬～11月上旬地拵え（ＴＦＰ，23kg／ha地上散布）昭和53年再地拵え（ＴＦＰ，35kg／ha地上散布），昭和58年再地拵え（ＴＦＰ，35kg／ha空中散布），平成２年再地拵え（ＴＦＰ，40kg／ha空中散布）

調査計画等

昭和53年６月稚樹調査６プロットを設定し，昭和59年まで毎年調査を行った。

その後３年目毎に調査している。

地　　況

標　高：1,400～1,680ｍ　　林地傾斜：32°

土壌型：Pw(i)Ⅱ（上部）・ｄＢ$_D$（下部）　　方　　位：Ｓ

林　　況

ササが一面に再生し，稚樹は日陰によって消滅傾向にあるが，照度の良い歩道沿いや根上り木の伐根周辺には稚樹の発生が見られる。

様式 4

昭和53年度 技術開発実施(計画)報告書

名古屋 営林(局)署　No.4-

課題	指示調整別	調整	継続新規別	新規	経常特別別	経常
課題	ヒノキ天然更新施業法 (木曽ヒノキ天然更新施業指標林)					
担当	付知 営林(局)署	開発か所	付知裏木曽国有林 118 林小班	開発期間	自 昭53 至 昭57	
目標	阿寺断層急傾斜地帯での木曽ヒノキ天然更新施業の指標林を設定し、更新体系確立と技術的問題点の検討を行う。					

経費科目	経費	品名(内容)	数量	単価	金額
	物件費	標示杭、番号札、鋼線、ペキ、フィルム等		円	千円 86
前年度までの累計金額	役務費	有料道路通行料			4
千円	労賃		13		91
	計				181

林試又は関連課題との関係

備考

実施計画　実行結果

(1) 帯状伐採(昭48)、魚骨状集材地に試験地設定

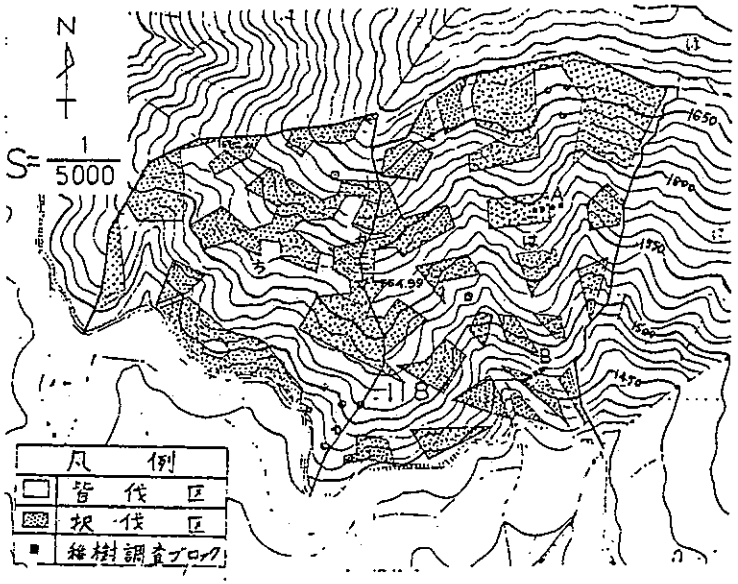
(2) 稚樹調査プロット設置、稚樹計測、照度計測

・ 指標林設定経過

伐採・昭和48年度横方向帯状皆伐、魚骨状集材、対照区は昭和47年度皆伐、保残帯幅30m(30%択伐)、皆伐幅10～40m、母樹数170本/ha 伐木集材功程は皆伐区にくらべて約20%ダウンする。

地ごしらえ・昭和49年、テトラピオン粒剤、地上筋まき、全域平均23Kg/ha、散布後9ヶ月目からチマキザサの葉の黄変がはじまる。18ヶ月目から幹枯死。

結実年・昭和49年(豊)、51年(並)、53年(並)

木曽ヒノキ天然更新施業指標林位置図

付知 118 は林小班